

甲斐山岳

第12号



八ヶ岳 丘の公園から (遠山若枝会員)

公益社団法人

日本山岳会山梨支部

甲斐山岳

第12号

公益社団法人

日本山岳会山梨支部

甲斐山岳第12号 目次

令和2年度を振り返って	北原 孝浩	1	随想・書評	
支部山行			随想 私の北岳	遠山 若枝
五里山	矢崎 茂男	6	書評『氷壁・ナイロンザイル事件の真実』	大澤 純二
たいら山	大澤さな枝	7	書評『甲斐駒開山』	矢崎 茂男
公益事業			追悼	
第6回やまなし登山基礎講座	北原 孝浩	9	河阪 一造さん	秋山 泉
第61回木暮祭を開催	矢崎 茂男	12	若月 昇さん	矢崎 茂男
山梨県山岳レインジャー活動報告			新会員紹介	
全国山岳古道調査計画	古屋 寿隆	13	窪田 光一、河野 芳尚、小嶋 数文、	
全国山岳古道調査計画	大澤 純二、所 一路	14	河野 泰、上田 謙治、高橋みゆき、	
新型コロナウイルス感染症と登山			黒沼 英美、河内 幸子、相川 修、	
感染症禍における登山			大城 丈典	
―乗鞍岳、苗場山に登る―	北原 孝浩	17	事務局報告	大澤純二
五竜岳・鹿島槍ヶ岳	大澤 純二	20	会員名簿	45
鳳凰三山の山小屋について	古屋 寿隆	22		39
コロナ禍の学校教育と山	矢崎 茂男	24		

令和2年度を振り返って

北原 孝浩

はじめに

新型コロナウイルスの世界的な蔓延のために緊急事態宣言が発せられ、不要不急な外出を自粛する、これまでに経験したことのないさまざまな制約やもどかしさを感じながら、コロナに振り回されたと言っても過言でない1年でありました。支部活動においてもしかりで、諸計画の見直しをする等何を行うにも新型コロナウイルス感染症防止の徹底を念頭に、検討立案実施することに努めてまいりました。

4月16日に国は全国に緊急事態宣言を発し、山梨県からも4月19日に新型コロナウイルス感染拡大に伴う登山者および山小屋関係者への注意喚起要請がなされました。また、山岳4団体は緊急事態宣言が全面解除された5月25日に「登山活動ガイドライン」を示し、傘下山岳会にそれを遵守するよう要請がありました。当支部が実施する登山、支部員による個人山行についてもこのガイドラインの趣旨をふまえた活動でありました。現在もガイドラインに沿った活動を遵守するのは当然でありま

す。
迎える令和3年度もコロナの変異種が出現し、日本でも流行の兆しがみえるなど一向に収まる気配なく、先が見通せぬ漠とした不安に包まれています。ワクチン接種が行き渡り、その効果が出てコロナ禍以前の状況の下で支部の諸計画が滞りなく実施できますことを願うところでもあります。

支部総会と役員改選

4月17日に開催の令和2年度総会も予約していた会場（甲府駅ビル、セレオ）では、当初飲食ができぬとのことで恒例の総会後の懇親会を行わず実施することとしていました。しかしながら4月16日には緊急事態宣言が全国に拡大されるなど、予定の会場が使用できなくなり、急遽実出席人数を減らし規模縮小してアウトドアショップ・エルクで開催しました。今次総会は役員の改選期にあたり新体制となりましたが、規模縮小しての総会、恒例の懇親会無しとなったため多くの支部員の皆さんに各役員が直接挨拶することができずまことに残念であります。新たな役員体制については既に「支部通信」第3期8号、6月25日付）において掲載したとおりであります。

『甲斐山岳』第11号別冊『甲斐百山』

山梨支部創立70周年記念企画として甲斐山岳第11号別冊『甲斐百山』を令和元年12月15日発行しました(初刷400冊)。大変好評でまたたくまに在庫がなくなり、2回増刷して合計1,200冊(第2刷令和2年2月4日300冊、第3刷令和2年3月10日500冊)を発行しました。

この『甲斐百山』は支部員への配布のほか、日本山岳会本部および各支部、山梨県山岳連盟加盟団体、日本山岳・スポーツクライミング協会およびその関係者、山梨県および各市町村図書館、新聞社やNHKなどのマスコミ、山岳雑誌等関係先へ寄贈した他、県内書店店頭販売を推し進めるなどして完売となりました。

支部計画の山行実施状況

支部計画の山行実施状況はつぎのとおりで、新型コロナウイルスの影響をもろに受けました。

深田祭および田部祭については地元観光協会などが実施中止を早々と決めました。これに伴う山行については、茅ヶ岳山行は実施しましたが、西沢渓谷遊歩道のハイキングは中止しました。木暮祭(10月18日)は地元観

光協会と打ち合わせを行い、碑前祭終了後の恒例の懇親会(キノコほうとうふるまい)は行わず、規模を縮小して実施しました。碑前祭に先立って例年実施の木暮祭記念山行は五里山において実施しました。

5月以降上半期に計画の山行は全て中止し、とくに家族登山については支部として初めての計画ではありましたが残念ながらこれも中止となりました。

下半期の山行は、新型コロナウイルスの感染状況をその都度判断し、実施する場合には感染防止に万全を期して実施することとしました。支部山行は10月度の五里山、11月度の「たいら山」を実施しました。1月度の「鳥谷山」は参加申込み者が多く、新型コロナウイルス感染防止の観点からリーダーが中止の判断をしました。2月度の「西向」についてはリーダーの体調不良(怪我等)のため中止、3月度の「浜石岳(静岡市清水区)」はコロナ禍の下、集合場所(登山口間の長距離車乗合移動に伴う新型コロナウイルス感染予防の観点から中止しました。

第6回やまなし登山基礎講座の3回の実践登山は、講座自体を規模縮小してあり、かつ新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、万全を期して実施しました(詳細は別項「第6回やまなし登山基礎講座」。なお、雪山入

門ステップアップ講習は、やまなし登山基礎講座の受講生を主な対象者としての企画で、これも感染防止を徹底して予定どおり2回実施しました。

第6回やまなし登山基礎講座と今後の対応課題など

山の日制定記念事業としての「第6回やまなし登山基礎講座」は従前より規模を縮小して新型コロナウイルス感染防止を徹底して実施しました。実施の詳細、ならびに受講生アンケート集計結果などは別記「第6回やまなし登山基礎講座」のとおり。

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が全国に発せられている中、支部としては当該講座を継続して実施できることが好ましいが、コロナ感染防止を第一義的に考えれば本年度実施を見送る場合もあることも視野に入れば、山梨学院生涯学習センターと協議を重ねました。最終的には会場の提供や開講中の諸々の事務をお願いしている山梨学院の結論如何と考えていました。そんな中、山梨学院から山梨支部との永年にわたる友好関係、この講座(共催)は継続することが望ましいとの考えのもと、新型コロナウイルス感染防止対応策が示されて、これにもとづいて実施しました。

講座は9月8日に開講し、3回の実践登山を行い、11月17日にコロナ感染者を出さずに無事に終了しました。3名の受講生が日本山岳会入会(正会員2名、準会員1名)という結果にもつながりました。

一方12月8日に山梨学院生涯学習センターを訪問した際に、学院の全般にわたる業務見直しや業務運営の効率化の検討が行われた中で、「生涯学習センター」が解体廃止され、講座継続ができなくなったという説明がありました。

来年度以降この講座をどうするか、1月度、2月度の理事会で議論を重ねた結果、従来のような山梨学院からの支援が全くなくなるため、規模を縮小してでも継続して実施する方向を確認しました。会場についてはめどが立ったものの、受講生の募集をどうするか、講座で配布する資料の印刷などの作業をいかに円滑に対応するか、さらに会場費等の所要経費について検討を重ねて行くこととなります。

山岳古道調査委員会立ち上げ、

調査山岳古道候補の選定

日本山岳会創立120周年記念事業の一つとして「全

国山岳古道調査」を実施し、「日本の山岳古道120選」と銘打った書籍を制作し公開することになりました。調査は各支部が主体的に実施し、その結果を取りまとめ、報告するなどの作業をすることになります。

山梨支部においてはこの山岳古道調査を推進するため2020年4月の総会において「山岳古道調査委員会」を設置しました。5月以降の理事会において委員会の構成および委員会の運営、調査対象山岳古道候補の選定等について検討を重ねてきました。委員は全役員および支部員から公募した者で構成されています。11月25日に第1回の調査委員会を開催し、以後毎月開催しています。選定古道の詳細は別記「全国山岳古道調査計画」の通りであります。

各委員は今後古道の実査に加え、その古道の歴史的文化的側面からのアプローチ、机上文献調査等々各委員が多岐にわたる活動に努めることとなります。そして2023年度末を目途に調査を完了して本部に調査報告書を提出し、以後本部における書籍制作などの作業行程に入る見込みであります。

山梨支部の山岳古道調査委員会の構成

委員長 所理事、事務局 大澤理事長

金峰山古道班：班長 小宮山会計担当 他11名
南アルプス北部古道班：班長 古屋事務局長 他7名

山梨県山岳レインジャー委託事業活動

新型コロナウイルス感染拡大、昨年の台風による林道崩壊による公共交通機関の運休、南アルプスにおける山小屋、テント場の閉鎖（時期により一部山小屋営業あり）等々で例年に準じた活動ができませんでした。例えば1泊2日の調査活動の場合には、山域を変更して2日に分けて実施するなどの工夫をして実施しました。詳細は別記「レインジャー活動報告」とおりであります。

その他

新型コロナウイルス感染防止の観点から、前記の他にも次の諸行事などが中止されるか、開催方法が変更されました。

恒例の支部新年会の中止、中部ブロック交流会（信濃支部幹事）中止、支部合同会議の縮小やオンラインによる変更開催、年次晩さん会の中止などあります。

令和2年度 支部計画山行の実施状況

		チーフ リーダー	実施状況	参加者	内、 支部員外	備 考
4月	茅ヶ岳	古屋 寿隆	実施	5	1	深田祭
5月	西沢溪谷遊歩道	大澤 純二	中止			田部祭
	青木ヶ原樹海 ～三湖台	古屋 寿隆	中止			家族登山
6月	三ノ沢岳	小宮山千彰	中止			
	双子山（北八ヶ岳）	小宮山千彰	中止			
10月	八人山	渡辺 肇雄	実施	15	7	やまなし 登山基礎講座
	五里山	古屋 寿隆	実施	13	1	木暮祭
	茅ヶ岳	古屋 寿隆	実施	20	12	やまなし 登山基礎講座
11月	高川山	小宮山千彰	実施	13	6	やまなし 登山基礎講座
	たいら山	渡辺 肇雄	実施	16	4	
1月	鳥谷山	荻原 賢司	中止	15	7	数字は申込み状況
	入笠山	小宮山千彰	実施	6	2	雪山入門ステップ アップ講習
2月	西向	長沢 洋	中止			
	北横岳	小宮山千彰	実施	8	3	雪山入門ステップ アップ講習
3月	浜石岳	磯野 澄也	中止			

支部山行

五里山

矢崎 茂男

山行日…令和2年(2020年)10月18日(日)

地 図…2万5千図・瑞牆山

行 程…金山山荘キャンプ場―登山口―思索峠―西峰

―東峰―薙山―登山口―金山山荘キャンプ場

参加者…古屋寿隆、磯野澄也、北原孝浩、渡辺峯雄、

荻原賢司、白田昌美、矢崎茂男、上田謙治、

高野正明、中川恵美子、相川修、福田直樹、

井口功

感染症対応のため自粛していた今年度第1回支部山行を実施した。目的地は北杜市須玉町増富の五里山。五里山登山は、木暮祭に合わせて何度か実施しているが、今回はこの山の複雑な稜線の内、北半分を踏破しようと古屋山行委員が計画した。13人の参加者を得て、充実した山行になった。

この山の紀行を最初に発表したのは横山厚夫さんだと



尾根を下る

東峰を辞して西峰の基部を右から巻く。その先でヤブ尾根を北に下降。シャクナゲのブッシュに辟易しながら辿り着いた薙山で昼食にした。沢を隔てて向山・思索峠・西峰が錦繡をまといっている。めいめい写真に収めたり、この山の地形の複雑さや登山

思われる。『一日の山・中央線私の山旅』(1986年、

実業之日本社)所収の「五里山」がそれである。ある年の1月、横山さんは行きつけの山宿である金山の有井館を訪れ、同行の望月達夫さんと共にこの山を目指した。

五里山は、有井館の正面にこんもりと立つ里山だが、実際にはなかなか手強い。横山さんらは誤って1640mの薙山に登ってしまい、一端下ってからルートを再確認。ようやくのことで1673.4mの三角点峰に立っ

ている。帰京後横山さんは、故山村正光さんにこの山行の顛末を書簡にしたためて送った。すると山村さんから次のような山名の教示があったという。「五里山は五輪

山の転訛でまわりの五つの峰の総称であり、三角点峰はとくに人神山の名がある」。現在私たちは、この教示に従って五里山をとらえているが、「人神」とは三角点の点名であって、地元では「向山(むかいやま)」と呼んでいるのでこの山名を使っている。

金山山荘キャンプ場に立つシラカバやカエデが、昨日の雨に洗われて鮮やかだった。樹間には初冠雪した金峰山が毅然とそびえている。

8時15分に出発し、金山沢を渡って林道を東進。廃棄林道入口から踏み跡をたどる。堰堤を二つ越えた先の谷

対象としての面白さを語り合ったり、岩頂での昼食を楽しんで。

キャンプ場に1時過ぎに帰着。ほどよい疲労感が残る充実した第1回支部山行だった。

たいら山

大澤さな枝

山行日…令和2年11月28日(土)

地 図…2万5千図・市川大門

行 程…農村公園駐車場―関原口登山道入り口―関原

峠―たいら山山頂―山之神社―山道入り口

―山之神登山口―農村公園駐車場

参加者…渡辺峯雄、池田新二郎、北原孝治、大澤純二、

小宮山千彰、磯野澄也、高野正明、山村正人、

福田直樹、相川修、大澤さな枝、上田謙治、

三輪田佳子、渡辺秀子、杉山健一

朝、我が家の大泉はみぞれ、後ろの八ヶ岳は雪化粧。心配しながらの出発だったが、間もなく青空に変わりホッとす。中央市農村公園駐車場に全員が集まり、渡辺リーダーから名簿と地図とコースの説明を受け、池田

サブリーダーの指導で準備体操の後、9時出発。

長屋門のある大きな屋敷や愛宕神社に歴史を感じながらロードを30分程歩くと登山道に入った。思いの外急斜面だがジグザグ道で歩きやすく、枯葉を踏む音が心地よい。途中甲府盆地を見下ろせる所でひと休み。再び登ると路傍に馬頭観音が三体。馬と人足だけが頼りの往來の道だったことが偲ばれる。さらに残る紅葉を楽しみなが



山頂にて

ら一時間程行くと関原峠に出た。左は富士方面への中道往還に通じ、昔は炭や物を甲府へ運ぶのに使われたそうだ。一休みの後私達は右に折れ、南の尾根越しに富士山の頭を見ながら、たいら山を目指す。

傾斜も緩くなり、11時50分、広く平坦な山頂に着いた。雪

化粧を始めた北岳や南アルプス方面と、甲府盆地一帯を眺めながら昼食。コロナ禍のさなか、密を避けてそれぞれ離れてとるが、何だか淋しい。遅れて到着した男性に全員の記念撮影をお願いし、12時30分、山乃神・千本桜コースに向け出発。急な下りもなく、林道に出てしばらく行くと山乃神社の標識。右に折れ13時、社殿前に出た。それぞれ参拝する。かつて春には満開の桜が麓から連なり沢山の参拝の人で賑わったそうだ。今は山桜も古木となり、枝ぶりも元気がなく淋しい。何とか賑わいを取り戻せたらと思う。

道はガレ石が多く歩みにくい。足が不調の一名、緊張しながら頑張る様子が痛々しい。すぐに絶景展望台があり、眼下に明るく広がる甲府盆地、遙かに八ヶ岳、甲斐駒、鳳凰三山と南アルプスが望め、なんと気持ちが良いことか！山々を指してはあれこれと楽しい会話でひと休み。天気が良ければ北アルプスも見えるとか。

14時、山之神コース登山口に全員無事到着。集落の畑の作物や、たわわに実った柚子や蜜柑や花梨を楽しみながら、15時、農村公園駐車場に着いた。高低差840mの運動で気持ち良く一日を終えた。リーダー、サブリーダーのご苦勞に心から感謝申し上げる。

公益事業

第6回やまなし登山基礎講座

北原 孝浩

山の日制定記念事業としての「やまなし登山基礎講座」は今年度第6回目となった。コロナ禍における実施状況、ならびに受講生アンケート集計結果は次のとおり。

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が全国に発せられている中、今年度の対応について、山梨学院生涯学習センターとの協議を例年より早い時期に開始し、慎重に協議を重ねた。支部としては山梨学院大学の授業がオンライン形態である状況の中、この講座を少人数規模に縮小するとはいえ、教室での開講（対面方式）で良いのであるうか、さらにこの講座でクラスター発生となった場合には山梨学院はもとより受講生にも多大な迷惑をかけてしまうのではないかとこの点が気がかりであった。

山梨学院からは永年にわたるこの講座を継続することが好ましいとの考えで、新型コロナウイルス感染防止の

ための対応策を具体的に示されて、それにもとづき実施するはこびとなった。

講座は三密を回避するための対策やマスク着用は言わずもがな、受講生および支部スタッフは全員が各自講座終了までの期間、講座開催の無い日を含めて、日々検温して記録すること、教室入室受付時の検温の他、受講生毎に座席定位置指定、さらに講座終了後には使用机を受講生が各自消毒するなど徹底して行い感染防止に努めた。

講座は9月8日に開講し、11日間16講座（3回の実践登山を含む）を実施して11月17日に無事に終了した。

今回も受講生に講座についてのアンケートを実施したが、その集計結果概要は次のとおりである。

募集受講生は15名（内、1名は欠席）であったが、前年度受講生が6名、前々年度受講生1名が再受講生であった。

1 受講生の構成など

年齢（年代分布）

	男性	女性	計
20歳代		1	1
30歳代		2	2
40歳代	1		1
50歳代	1	2	3
60歳代	3	2	5
70歳代		2	2
計	5	9	14

登山歴、山岳会加入状況、登山形態

登山歴	山岳会（登山グループ等）		登山するとき		
	加入	未加入	単独で	グループで	回答無し
3年未満	3	3	1	1	1
4～9年	5	4	3	2	
10～15年	1	1	1		
16～20年					
20年以上	3	3		3	
登山歴回答無し	2	1		1	1
計	14	12	5	7	2

2 講座についての感想

- 講座全体
 - 大変役に立った（大変良かった） 10名
 - 役に立った（良かった） 4名
 - 講座のレベル
 - 初級編で丁度良かった 11名
 - もう少し上（中級編）を期待していた 2名
 - 講座内容（1）
 - 良かった 12名
 - 登山知識・技術・実践登山だけ 2名
 - *意見・ロープワークを身につけたい
 - 講座内容（2） 実践登山 1名
 - 増やしてほしかった 4名
 - 今回程度の3回が良かった 9名
 - 回答無し 1名
 - 講座内容（3） ロープワーク、セルフレスキュー
 - 役に立った 3名
 - もっと時間をかけて学びたかった 3名
 - 興味・関心が有る 3名
 - 自由意見・学んでも使用する機会が無い
 - すぐ忘れてしまい覚えられない 3名

8の字結びは身につけたかった
カタカナ、英語で理解しにくい

3 日本山岳会について

- 講座日数・回数
 - もっと増やす 3名
 - 今回程度で良い 11名
 - 多いと感じた 0名
- 1回あたりの講座時間
 - 「適当である」と14名全員回答し、「もっと長く」とか「短く」という意見は無かった。
- 来年度（第7回）この講座を開催した場合について
 - 再度受講してみたい 6名*
 - 受講する考えは無い 4名
 - わからない 3名
- *再度受講する理由
 - 登山知識・技術をさらに上を学ぶ 4名
 - 今回理解できなかったことを学ぶ 2名
 - 講座実施を知った手段、方法
 - 山梨学院からの案内（DM） 5名
 - 山梨学院のホームページを見て 1名
 - 日本山岳会のホームページを見て 1名
 - 図書館などでチラシを見て 4名
- 関心の有無
 - 大いにある 1名
 - ある 7名
 - 無い 4名
 - どちらとも言えない 1名
- 入会
 - 入りたい 2名
 - 前向きに考えたい 4名
 - わからない 7名
 - 入りたくない 1名
- 山梨支部実施の山行などのイベント
 - 参加したい 2名
 - イベント内容により参加する 11名
 - わからない 1名

第61回木暮祭を開催

矢崎 茂男

北杜市須玉町の金山平で10月18日、61回目の木暮祭が開かれた。主催は木暮碑委員会を構成する増富ラジウム温泉郷観光協会と日本山岳会山梨支部、山梨県山岳連盟。碑前で献酒、献花のセレモニーを行ったが、増富ラジウム温泉郷観光協会が骨を折ってくださる恒例の「ほうとうを楽しむ会」は、



あいさつする北原支部長

新型コロナウイルス感染防止対策のため実施見送りとなった。

金山平の高台にある碑前には県内各地から25人が集まった。式は古屋寿隆支部事務局長の司会で進行。観光協会の小森良直事務局長が開会の辞を述べた後、県山岳連盟と本支部代表があいさつした。小宮山稔岳連会長

は、「コロナ禍下にあっても、木暮理太郎の奥秩父への功績を忘れないために碑前祭を実施することに意義がある」と述べた。北原孝浩支部長は、「かつて故八巻恭介観光協会長が『金峰山は実に立派な山だ。(中略)何処へ放り出しても百貫の貫禄を具えた山の中の山である』

という文章を引用して、木暮翁の金峰山と増富への愛情について紹介したことを覚えている。翁の心をいつまでも語り継いでいきたい」と語った。また内藤順三顧問は、県立文学館報第111号を配付。昨年文学館が収蔵した、親友の田部重治宛ての木暮の書簡2通を紹介。このうちの1通は、笛吹川東沢の森林伐採によって東沢の幽邃が失われてしまったことを嘆いた内容で、奥秩父の自然保護を考える上で貴重な資料だとした。

木暮碑は周囲をシラカバ林に囲まれた高台にある。3年前、県が碑の東側に幅10メートルの切り開きを作り碑の正面に金峰山を望むことができるようにしたが、早くも幼木が育って展望を遮るようになったのには驚いた。先の木暮書簡とは矛盾もするが、紅葉と金峰山を望むロケーションの維持が期待される。また「ほうとうを楽しむ会」の復活も、大いに期待される。

山梨県山岳レインジャー活動報告

古屋 寿隆

例年通り山梨県委託事業として山梨県山岳連盟が受託し、傘下加盟団体が担当山域において原則1泊2日で実施した。

2019年度の実績は左記のとおりである。

- 6月23、24日 甲斐駒ヶ岳（探索） 大澤純二、池田新二郎
- 7月1、2日 北岳（定経路②） 北原孝浩、大澤純二、池田新二郎、白田昌美
- 7月25、26日 鳳凰三山（探索） 北原孝浩、大澤純二、渡辺峯雄、池田新二郎、白田昌美

特筆すべきは北岳トラバース道において、レインジャー活動36年の実施のなかで、これまで見つからなかった「キタダゲデンダ」を発見したことだった。

2020年度の実績は左記のとおり。

- 6月27日 北岳（探索） 古屋寿隆、上田謙治
- 6月29日 櫛形山（探索） 古屋寿隆、上田謙治

- 7月15日 甲斐駒ヶ岳（探索） 北原孝浩、池田新二郎、河内幸子
- 7月17日 日向山（探索） 北原孝浩、白田昌美、黒沼英美
- 8月8、9日 鳳凰三山（定経路①） 古屋寿隆、大澤純二、上田謙治、高橋みゆき

年初からの新型コロナウイルス感染拡大により、県と協議の上、例年通りの活動は大幅に変更された。特に4月以降6月、7月までの活動は通常の1泊2日の活動は中止とし、日帰り2日間の実施することとなった。ようやく7月下旬から宿泊活動が解禁され、かろうじて鳳凰三山のみ正規の状態での活動できた。タカネビランジ・ホウオウシャジンは変わらず鳳凰の稜線に彩豊かに咲き誇っていた。

全国山岳古道調査 (日本の山岳古道120選) 計画

1 調査の実施に向けて

大澤 純二

(1) 日本山岳会山岳古道調査プロジェクトについて
日本山岳会は2025年に創立120周年を迎える。2019年9月支部合同会議で、記念事業として、「全国山岳古道調査」を実施することが決まった。100周年の際は「日本列島中央分水嶺踏査」を実施したが、それに次ぐ事業である。

山梨支部では理事会で検討を進め、2020年4月の支部総会で山岳古道調査委員会を設置した。その後、9月の支部合同会議で詳細な調査ガイドブックが提示されたのを受けて、11月25日、第1回委員会を開催した。委員会に「金峰山古道調査班」と「南アルプス北部古道調査班」の2班を設け、調査活動を始めた。

(2) プロジェクトの目的
プロジェクトの目的は、全国の山岳古道を文化的、歴

史的、地理的な側面から探索、調査し、実際に現地を歩いて調査・記録して、その情報を後世に残るような形で公開することである。また、なるべく一般に忘れられていたような山岳部分の多い廃道を選定し、観光化したような古道は避けることが原則である。

(3) 山梨支部の古道調査計画

山梨支部として調査対象となりうる古道には、甲斐九筋と呼ばれる街道、信仰登山・参拝道、そのほかの山岳古道があげられる。

- ・ 甲斐九筋：若彦路、中道往還、駿州往還、鎌倉街道、秩父往還、青梅街道、穂坂路、逸見路、棒道* (注：*は文化庁「歴史の道100選」に選出されている古道)

- ・ 信仰登山：富士山、鳳凰山、金峰山、甲斐駒ヶ岳、北岳

- ・ 山岳古道：南アルプス北部早川(野呂川) 流域古道、その他

山岳古道調査委員会は、①金峰山古道(御嶽道とも呼ばれる)、②南アルプス北部古道(早川流域への峠越えの古道)の二つを本部に推薦し、調査を進めることにした。

① 金峰山古道：甲斐国志によれば参拝道は9口ある。

信州側にも参拝道一道がある。これらの参拝道を一

道として調査する。
② 南アルプス北部古道：早川流域に入る古道(峠道)は数多く、さらには大井川流域への峠道につながるものもある。これらを合わせて一地域の古道として調査する。

2021年1月20日、第2回山岳古道調査委員会です。所一路委員長の下、①金峰山古道調査班(小宮山千彰リーダー以下12名)、②南アルプス北部古道調査班(古屋寿隆リーダー以下8名)を編成した。資料調査を始め、ついで現地調査を始める計画である。

(4) 今後のスケジュール

2021年3月 金峰山古道および南アルプス北部古道の2件を日本山岳会本部へ推薦

2021年1月～2024年3月 古道調査実施、報告書・各種情報のデータベースを作成

2021年4月～2025年10月 JAC本部がホームページ制作(web掲載)、書籍制作

2 金峰山古道・南アルプス古道の周辺に触れる

山岳古道調査委員会委員長 所 一路

山梨支部の古道調査は金峰山古道と南アルプス北部古道の二つの地域を対象とすることになった。プロジェクトの詳細は大澤事務局長の説明の通りである。

金峰山古道は久保田明宗会員による金峰山と修験者の調査記録がある。南アルプス北部古道も『甲斐山岳』第1号の「登山史を歩く」に多くの記録が掲載されている。また『甲斐国志』をはじめとする地誌や初期登山家の紀行にも多くの記載がある。資料には事欠かないと言えようか。春以降の古道調査開始に当たり、周辺の事情について触れることにする。

『甲斐国志』に「片山陰にて」とある金峰山古道の吉沢口は、千塚から片山を回って荒川を渡り山を登っていくが、麓の吉沢には順徳天皇ゆかりの白興(板興)を伝える常説寺がある。住職の高橋さんは「御獄古道を復元する会」で研究と古道整備に当たっている。吉沢から山を越えると、金峰山里宮の金桜神社で境内にはかつて「起請神文の鐘」という神威ある鐘が置かれ、裁判の際この鐘を撞いて潔白を神に誓ったという(笹本正治『武

田氏と御岳の鐘』。

「登山史を歩く」の大峠の記録に原全教の『奥秩父』の一部が引用されている。江草村の岩下の萬屋という造り酒屋が大峠まで一丁置きに観音像を建立したとの内容である。現当主に尋ねたことがあるが分からずじまいである。今回の調査で手がかりが得られればと思う。

『芦安村誌』などの地誌に出てくる芦倉村（現南アルプス市芦安）と黒沢・山高・柳沢三ヶ村（現北杜市武川町）との山論に泉水峠・早川峠（広河原峠のことか）の地名が見られる。また若神子村（現北杜市須玉町）の村民は入会地のある鳳凰山まで田畑の肥料にする刈敷（山の下草のことで1反の田に20駄も必要）を取りに通っていたことも地誌にある。山が生活物資を得る大切な場所であり、かつて人々は奥山のことまでよく知っていたと思われる。

寛文検地の見取水帳には、かれい沢34畝12歩の畑が記録されている。アーネスト・サトウはアイサシ、アイヤスの焼畑地名らしい所で「左岸の黍畑を登って」と書いている。野呂川流域には早くから耕作地があったのである。

現韮崎市穂坂町の平賀文男は、夜叉神峠で荷を背負つ

新型コロナウイルス感染症と登山

感染症禍における登山

―乗鞍岳、苗場山に登る―

北原 孝浩

2020年は世界中が新型コロナウイルス感染に揺れ席巻され、この未曾有の災害は歴史に刻まれるであろう。私たちの日常生活や登山スタイルも今までと大きく変わった。この原稿作成中に第2回目の緊急事態宣言が発せられた。この先コロナ禍の下での生活がいつまで続くのか、予断を許さない日がまだまだ続くと思われる。2019年12月に中国武漢市で確認された原因不明の肺炎は、2020年1月中国当局により「新型コロナウイルス」と確認された。日本国内でも1月15日に初めて感染者が確認され、政府は2月1日に感染症法の「指定感染症」に指定してその対策に着手した。

その後、全国で患者が出て、2月27日には全国一斉学校臨時休業となった。北海道、首都圏、関西圏を中心に急激な感染拡大に至り、4月7日には新型インフルエン

タ芦安の娘さんに会ったことを記している。泊まり込みで働いている家族に生活物資を届け、山で生産された物を持ち帰る生活が営まれていたのだろう。

以上、周辺事情のいくつかを紹介した。このような歴史・民俗・生活などが盛り込まれれば調査報告は一層豊かな内容になるだろう。調査委員はじめ会員各位のご協力をお願いする。

ザ等対策特別措置法を適用し、7都府県（東京都、埼玉・千葉・神奈川の各県、大阪府、兵庫県、福岡県）に緊急事態宣言を發出、4月16日には対象が全国に拡大されて、外出自粛要請（不要不急の外出自粛、都府県境を越えた移動自粛）や休業要請等が行われた。その後、大型連休を経て感染者が一定程度抑えられているとして、5月14日に39県についての宣言が解除され、5月25日には全国の緊急事態宣言が解除された。

この間日本山岳会は2月27日に、「3月15日までの間、開催予定の大規模イベントは中止・延期をする。本部や各支部における小規模イベントや会合は発熱等症状ある人は出席を控える。マスク、手洗い、アルコール消毒、咳エチケット、室内換気等を徹底する」よう会長が表明した（日本山岳会のホームページおよびメルマガジンにて。以下URL・メルマガ）。さらに4月8日には、「大都市圏の会員宛てに、3密を避け登山を含む不要不急の外出は5月6日まで控える。とくに登山や山スキー等で遭難事故を起こすと、医療システムへの負荷を高めてしまいうので自粛する。支部の活動は地域の感染状況、実情などを勘案して適切に判断して欲しい」との考えを会長が表明した（URL・メルマガ）。山梨支部では上半期

の登山計画を中止した。

山岳4団体（日本山岳・スポーツクライミング協会、日本勤労者山岳連盟、日本山岳会、日本山岳ガイド協会）は、緊急事態宣言全面解除を受け、5月25日に登山活動のガイドラインを示し、遵守することを傘下山岳会に要請した。

「登山活動ガイドライン」（要旨）

近距離で極力都道府県を跨がない。

日帰り登山から始める。

体調不良の場合には登山に出かけない。

登山は少人数で、パーティーは当面5名以内にする。

山中でもマスクを着用する。

3密を避け、登山中のソーシャルディスタンスを2m以上とる。

登山山域内での買い物や下山後の飲み会は控える。

緊急事態宣言解除後、感染者数も減少傾向になり、登山する人数が徐々に回復してきたと考えられ、ポチポチ登山を楽しめる状況になってきたのかなと思います、私は登山を開始する気になった。しかし、新型コロナウイルス



苗場山高原湿原を間隔をあけて進む

低でも1m、できれば2mの距離を保つことが好ましいと言われている。密閉は「換気が悪いこと」で、換気が悪いと飛沫が室内や車内に留まってしまふ。この他に留意した点は、混雑する日避ける（平日が良い）。同行者は少人数（3〜5名）で。人気の高い山は避ける。登

山コースが複数ある山では極力人が集中しないコースを利用する。宿泊を伴う場合は極力小屋泊を避ける（1張り1名のテント泊）。小屋泊する場合には寝袋持参（寝具からの感染防止）で、素泊まり・自炊（小屋食堂での密集を避け小屋外のベンチなどで飲食）。同行者との行動中の距離は5m〜10m位とる。行動中の休憩、飲食時には各自2m程度の距離を保ち、かつ極力相互に風上風下とならぬような場所を確保する。車に相乗りする場合にはマスクを着用し、高速道路走行中でも窓を4分の1程度開け、時々全開する。消毒液など自分専用を持参する。こういった考えを同行者と共有する。

留意点をふまえて実施した宿泊を伴う山行

（小屋素泊まり、自炊）から次の2つを記述する。

ヒュッテ入口の看板

『乗鞍岳（千町尾根）』…8月2日（日）

3日（月）、4名。千町尾根は信仰の山乗鞍岳

（3025m）山頂から南西方向に伸びる尾根で、江戸時代から岐阜県側の登拝道、登山道として利用されたが、現状は廢道に近い状態で利用する人は稀である。何故そのようになったかは、乗鞍スカイラインの出現利用であろう。1642年（昭和17年）軍用道路として岐阜県側の麓から標高2710m（豊平近辺？）まで完成したこの道は、戦後1948年「乗鞍スカイライン」として路線バスが運行され現在に至っている。千町尾根道は利用する人は少なく忘れられた存在になってしまったようだが、この道には、ほぼ等間隔に石地蔵が置いてあり、クラシカルな良き雰囲気を残している。道自体は荒れてはいるが消え失せた状態ではない。長大なハイマツの樹海、しかも背丈を超える場所が続き、さらに笹が繁って藪ごぎを強いられた。この日誰にも会わなかった。乗鞍山頂から6キロメートルほどにある奥千町避難小屋（岐阜県高山市管理）に泊まった。この避難小屋は15名ほどが横になれる板の間とほぼ同じ広さの土間がある避雷針付きの小屋、この日私たちだけの利用であった。自炊し、3密にならず、持参寝袋に入り雷鳴を聞きながら眠りについた。機会あれば別の時季に訪ねたい。

『苗場山（小赤沢ルート）』…8月28日（金）〜29日



(土)、4名。小赤沢ルートはかつて信州最後の秘境と言われ、新潟県境の長野県栄村の秋山郷、秘湯小赤沢温泉の小赤沢集落のさらに山奥に入った三合目が登山口(駐車場)である。下山途中に3名の登山者に会っただけ。7合目辺りから高層湿原帯、大小沢山の池塘には水を蓄えて青空と白い雲を映しているもの、乾燥して干からびた底を見せているものなどさまざま。池塘の周囲や登山道(木道)脇にはイワシヨウブやキンコウカの花が咲き乱れている。苗場山頂ヒュッテ(長野県栄村管理)に泊まる。ヒュッテは定員92名(床面積230平方m)、宿泊は私たち4名のみ。感染防止のためのアクリル板がふんだんに使われている。宿泊しない日帰り登山者等は小屋内への立ち入り(雨宿りも)が禁止され、さらに土産物も販売しない等感染防止が徹底されていた。私たちは小屋で水を頂き広い食堂で自炊、飲食できた。20名就寝可能部屋1つに1名ずつ、持参した寝袋で寝た。

無人小屋泊や素泊・自炊の小屋泊、テント泊山行は寝具・食料・コンロ・水等、背負う荷物は増えて重くはなるが、新型コロナ感染予防対策のことを除いたとしても、若かりし頃の楽しかった登山をあらためて懐かしく思う機会ともなった。

あった。そのあと登山届提出の確認、そして乗車券購入。ゴンドラの行列は短かったが、でも待ち時間は長かった。ゴンドラは定員6名だが、コロナ対策で同グループ3名までの少人数の乗車だった。

ゴンドラ、そして乗り継いだリフトから眺める八方尾根のお花畑は、淡い霧に覆われ、なかなか幻想的だった。この先下山するまでずっとお花畑は続いた。

やがて、唐松岳頂上山荘に到着。小屋の前で昼食をすませて五竜山荘に向かう。

五竜山荘に泊まる。小屋の中ではマスク着用である。



五竜山荘、武田菱前にて

定員の半分くらいか、4人で1部屋に入り、夕食前にお酒を少々、くつろいでから夕食は食堂へ向かう。食堂では、大テーブルの向かい合わせの席では衝立があった。小さいテーブルでは、学校の教室方式で、皆同じ方向を向いて食事していた。ご

五竜岳・鹿島槍ヶ岳

大澤 純二

2020年8月上旬、山梨支部会員4名で後立山連峰・五竜岳・鹿島槍ヶ岳を縦走した。コロナ禍の中での山行であり、何かと制約がありストレスを感じることも多かったが、20年ぶりのこのルートは、お花畑が最盛期、素晴らしい山旅となった。

今シーズンの山小屋宿泊は完全予約制であり、事前予約した。また宿泊者リストや登山届のコピーも持参した。もちろん、マスクやアルコールなどの感染予防グッズやシュラフも持参である。ここでは山小屋などでのコロナ対策を中心に記述する。

1日目 八方尾根ゴンドラ―八方尾根―唐松岳山荘―五竜山荘(泊)

2日目 五竜山荘―五竜岳―キレット小屋―鹿島槍ヶ岳(南峰)―冷池山荘(泊)

3日目 冷池山荘―爺ヶ岳―種池山荘―柏原新道―新道入口

山行は、八方尾根ゴンドラリフトから始まった。乗車券を買う前に、検温と体調確認のチェックシート記入が

はん味噌汁のお代わりは、普段なら自分たちですが、スタッフが配膳した。食器はすべて紙の使い捨てだった。また、食事中はマスクはテーブルに置かず、ポケットにとの表示があった。

敷き布団と掛け布団はあったが、就寝は各自持参のシュラフを使用した。

2日目、五竜山荘から冷池山荘を目指す。コースタイムはざっと10時間、とにかく長い。おまけに、五竜岳から鹿島槍ヶ岳の間は、八峰キレット越えの険しい岩稜である。五竜岳を越えキレット小屋に昼前に到着、昼食とする。

冷池山荘から来た登山者が、バテてしまったので小屋に泊めてくれと頼んだら、予約なしはダメだと言われながらも、なんとか泊めてもらえるようになったと話していた。エスケープルートは無い。泊まれば遭難予備軍かと思われた。

20年ぶりのこの行程、体力の低下激しく、鹿島槍を越えてからはバテバテで、17時過ぎ冷池山荘に到着。荷物を部屋において、すぐ食事。誠に残念ながら食堂では飲酒不可。食後談話室でビールを飲むことになったが、お腹は一杯、窓が開けられているので寒くて500ミリ

リトル飲むのが精一杯だった。もっと頑張って早く着けば、おいしくビールが飲めたのにと思ったが、体力的に無理だった。

就寝は、4人で1部屋。一人ずつ仕切りのカーテンが下がっていた。使い捨て不織布の枕カバーと掛け布団シート（襟カバー兼用）が用意されていて、シユラフは使わなかった。

3日目、冷池山荘を出て爺ヶ岳を越え、柏原新道を扇沢へ向けて下山した。

コロナ禍の下での山行は、遭難救助などで迷惑をかけるように、実力に見合った余裕のある計画が必要だと思つた。また、何かと制約が多かつたが、やはり山を歩けたことは大変ありがたいことであり、受け入れ側の山小屋ほかの皆さんには大変感謝している。

鳳凰三山の山小屋について

古屋 寿隆

2020年8月8、9日、山岳レインジャーで利用させていただいたコロナ禍における薬師岳小屋の状況を記す。行程中に夜叉神峠小屋、南御室小屋が途中にあるの

でこれも関連して以下述べていく。

100年に一度あるかないかの新型コロナウイルスCOVID19の年初からの発現は、これまでの登山の様式をはじめ山小屋のあり方などを大きく変えた。特に4、5月の緊急事態宣言下、山岳4団体をはじめ山岳医療団体等や山梨県が登山活動における感染拡大防止策や登山における新行動様式を発表し、注意喚起した。その結果登山道や、登山口駐車場の閉鎖も一時的に行われた。南アルプス北部では南アルプス林道および北岳、間ノ岳の登山道が通行止めとなり、白根三山周辺の山小屋は全面的に営業中止となった。かろうじて鳳凰三山、甲斐駒ヶ岳の山小屋5軒が万全の感染防止対策を講じ、かつ規模を縮小して営業を継続することになった。

登山口から一時間ほどのところにある夜叉神峠小屋は営業していたが、登山客は少数で小屋内には誰もおらず小屋番が一人だけであつた。宿泊客もいないようだ。

南御室小屋は営業中で、宿泊は定員15名までと縮小。また昼前にも拘わらずテント場にもテントが数張あつた。宿泊はもちろんテント数も制限し、完全予約制で、夜叉神峠登山口にその告知が掲示されていた。予約のない登山者にははっきりと断りを伝えて下山を促してい

た。

小屋の周辺にロープを張りめぐらせ、そこから内部に入るにはマスク着用厳守の張り紙があつた。外にもかかわらずロープ内の水場やトイレの使用にはマスクの着用が必要であつた。またテント場の奥地には仮設のトイレ用テントが1張置かれ携帯トイレ使用が義務づけられていた。



薬師小屋の寢室

薬師岳小屋も完全予約制である。本年は大幅に定員を減らして13名限定であつた。また、パーティーリーダーには同行者全員の2週間の行動および体調管理を依頼し、感染の可能性がある参加者がある場合は、宿泊を断るようになっていた。マスクを着け、入口の消毒スプ

レーで手指を消毒し、受付では全員の氏名・住所等を記載した登山届の控えを提出して入室となる。全員の名前が必要なのは万一感染者が出た場合の感染経路捕捉のためである。

寢室は2階、廊下は銀マットが敷いてある。また中央の板の間はビニールで覆い広い空間を維持している。部屋の周囲を寢床とし、一人2畳あてで隣りとはビニールで覆ったボードで仕切り、入口はカーテンを吊るして個室化してあつた。また、寝具を介しての感染防止のため、寝具（マット・毛布・枕・布団）の貸し出しは停止されているのでシユラフとマットは持参である。マスクは小屋内で着用必須、各自消毒液も持参、さらにリーダーには体温計も持参することが求められている。トイレの使用後の紙類は持ち帰りでごみ箱は撤去されている。ジップロックが必要である。当然登山中のごみや飲食で使用したコップ・空き缶類も持ち帰り厳守である。さらに小屋内の換気は常時行っているため防寒着は用意する必要がある。

しかし、例年のハイシーズンであれば畳1畳に2人は珍しくないのにゆつたりと快適な空間で体を休めることができた。

コロナ禍の学校教育と山

矢崎 茂男

安倍晋三首相（当時）の号令により、全国の学校が令和2年3月上旬から臨時休校になった。卒業式は参加者を必要最小限にとどめて実施した。田舎の小学校の校長である私は、6年生一人一人に卒業証書を授与するという最低限の責務を果たすことができ安堵した。4月、新年度が始まったが、休校は続いた。担任が週1回程度の家庭訪問を行い、課題のプリントなどを配付。また学習動画を作成してネット配信するなどの学習支援を行った。

県内の多くの市町村が休校解除・学校再開に踏み切ったのは5月25日である。3月の休校開始から通算すると、およそ3カ月間、教育活動は停止していたことになる。休校中、非常事態への対応のため、市教委では頻繁に臨時校長会が開かれ、職員室でも、連日の会議が続いた。

学校再開後、徐々に学校の日常が戻ってきた。しかし、授業や活動に関する細々した制約は多かった。また長期休校の影響による不登校の発生も問題になっていた。私

の学校にも登校できずに悩み苦しんでいる複数の子どもと保護者がいた。担任は毎日のように家庭訪問を繰り返した。担任も疲弊していた。教室に空白の席があるのは辛いのである。自責の念―その必要はないのだが―に駆られるのである。良心ある教員とはそういうものである。

「空けない夜はないよ」と、私はありきたりの言葉をかけ続けた。ありきたりではあるが、これが真実であることを経験的に知っているからである。

次なる感染拡大に備えて、国は全小中学生にタブレット端末を持たせる政策を加速させた。長期休校になった場合、リモート授業を家庭で受けられるようにしようというのである。これが実現すれば、第2波・第3波に襲われようが恐れることはない。日本の教育は滞りなく実施されるのである。このことは同時に、子どもたちが学校に来なくても勉強ができるシステムが構築されるということを意味する。もはや「明けない夜はないよ」と、苦悩する担任の肩を叩く必要もなくなる。コロナ後の学校教育はどこへ行くのだろう。「空けない夜があっても気にするな」……。これを認めよということなのか。学校教育と同様に、山にも様々な影響が及んだ。「新

しい生活様式」への移行が、従来の登山形態の見直しを迫っている。組織的な登山は、慎重な計画・実施がいっそう求められる。先のタブレット配備施策によって、画超越しのバーチャル教育が拡大することを、私は危惧している。子どもは、友との学び合いを通して成長していくのだから。同様に、登山者は山を味わう体験を通して人生を豊かにする。

「山に登るということは、絶対に山に寝ることではない。山から出たばかりの水を飲むことでなければならぬ。なるべく山の物を喰わなければならぬ。山の嵐をききながら、その間に焚火をしながら、そこに一夜を経る事であればならない。…」(山は如何に私に影響しつつあるか)

田部重治の主張が、笛吹川のはるか源流から聞こえてくる。山がバーチャル化してはならない。

随想・書評

私の北岳

遠山 若枝

子供の頃から南アルプスの山々に憧れていた。女学生頃は毎日のように家の庭に立ち、西の空の彼方の碧い山並みを眺めて、カールブッセの詩を口ずさみ山の向こうに思いを馳せていた。いつかは越えたい山脈だった。富士山も家から見事な雄姿を眺めることが出来て素晴らしい山だと思っていたが夕日に染まる南アルプスは私の心を捉えて離さなかった。

やがて就職をして職場の仲間とスキー、ハイキング、テニスとアウトドア派となり充実した日々を過ごしていたある時、南アルプスの山に登る機会が訪れた。そのきっかけは私が野生の植物画を描いていて、高山植物を描かないかと山岳カメラマンのM氏を紹介され、一緒に八ヶ岳、秩父の山々、富士山塊と徐々に高山に出掛け、ついに憧れの南アルプスの山々に登ることになったのである。

鳳凰三山、白根三山、仙丈ヶ岳に花の季節は夢中になって登った。子供の頃から憧れの山々に登る機会が来るなんて思いもしなかった。若いうちに登山の訓練もせず、現代の山ガールのファッションなど想像もつかない有り合わせの登山道具と粗末な出で立ちで出かけ、日本で2番目の山に登った無茶な私だったが、その感激は今でも鮮やかに蘇る。徐々に山登りのプロと言える仲間が増え、登山のノウハウを覚えてもらい、自然の厳しさや美しい景色を堪能する楽しさを知った。そんな日々を過ごす中で憧れの山に登り、大好きな高山植物の絵を描くことが出来たことは素晴らしい経験であり、画文集「花暦」、「山に花が咲くとき」を出版することに繋がっている。

最初に北岳に登ろうと誘われた季節は雨期の終わった晴天の日、ようやく山の花が咲きだす時期だった。今では芦安からの林道は夏になると交通規制がありバスでしか入れなくなるが、当時は北沢峠まで車で入ることが出来たから春から秋の季節は毎週のように出かけていた。広河原から白根三山の全容は見えないが途中の白鳳溪谷からは三山の稜線が眺められるところがあり、その美しい山並みに心が躍った。広河原から眺める北岳の頂は

真っ白な雪に覆われていて、その雄大な姿で迫ってきて私は立ち尽くすばかりだった。

大樺沢の雪渓は初夏とは言え雪深く、二俣の近くの大岩は雪に埋もれて影を作り休憩する場所として最適であった。綺麗な雪をかいてコッヘルに入れ、携帯用のガスで溶かして飲んだインスタントコーヒーの味は忘れられない。何年かはその場所は憩いの場所だったが最近では雪が汚れていて美味しいお茶も飲めないし、あの大岩を埋めた雪も積もらない。そして八本歯のコルには私と山仲間のお気に入りの岩があり、それぞれに自分の名前を付けた岩は登山の時の休憩場所となり、その場所に着くと必ず私達は自分の岩に腰を下ろした。残雪の光る尾根に向かって梯子を上り、頂を目指して切り立つ岩が並ぶ登山道を歩きながら雷鳥の親子に出逢ったり、オコジョを追いかけてたりしながら、爽やかな風に吹かれる心地良さは下界では味わえない喜びだった。

初めて眼にする景色とお花畑は登りの苦しさや辛さを吹き飛ばした。険しい山の上で健気に生き続け、様々な形や色とりどりに咲く高山植物の小さな命に感動した。当時は可憐で様々な姿の美しい花は貴重な高山植物として希少価値があり、高価で販売されるため盗掘が盛ん

で、珍しい高山植物の生育地が荒らされた。生きる場所が変わればほとんどの高山植物は枯れてしまっだろう。厳しい条件で生きてきたからこそ必死でその場所に咲いているのだから。

その頃、私の就いている仕事が自然環境関係だったことから自然保護活動にのめり込み、溪流の汚染問題や高山植物の保護活動に取り組んだ。北岳の谷川の水の汚染防止のために携帯トイレの持ち帰り運動や山小屋のトイレの改善にも尽くした。最近ではゴミの持ち帰りが普及してゴミを捨てる登山者は少なくなったが、地球温暖化の影響で植物の生育環境が変化したり、鹿や猿の食害が増えたりして山の環境が変わってきている。

北岳は日本の北限と南限の境にあり高山植物の種類も豊富であり、その魅力に圧倒される。高山植物の絵を描きたいと何度も北岳に登っているうちに自分の家の庭の様に愛着が湧き、夏になる前から山小屋の管理人のS氏と共に過ごすことが多くなり、いろいろと山について教えてもらいながらキタダケソウの保護や調査に関わることになり、環境省の南アルプス国立公園指導員となって30年余りの年月を南アルプスに通い詰めたのである。暇さえあれば南アルプスの山々に登り、時には報道機関の

取材に同行し、また県のレインジャー活動、登山ガイドの手伝いや動植物の保護活動に参加するなど、数年前までは北岳を中心に日常が巡っていたように思う。子育ても親達の介護も無事に過ごすことが出来たのか判らないが、すでに子離れと親を送ってしまった今になってはすべてが時効だろう。

私の人生には南アルプスの山々で出会った多くの人々との交流があり、それが全国の登山家と繋がり、海外の山々に植物の絵を描きに行くことが出来、誰もが出来ないう稀な体験をした。時は流れて年齢を重ね、この10年、南アルプス、特に北岳に登る機会がほとんどなくなった。けれども山で費やした時間は私にとってかけがえのない貴重な体験の積み重ねであり、多くの山の仲間との出会いや別れの思い出がある。それゆえ北岳に寄せる思いは誰にも負けないと思っているし、私だけの北岳がある。

『氷壁・ナイロンザイル事件の真実』 (石岡繁雄・相田武男著 (株)あるむ、2007年)

大澤 純二

普段小説を読まない私が、3年ほど前、井上靖「氷壁」を読んだ。1955年1月2日に起きた前穂高岳東壁冬季登攀におけるナイロンザイル切断事故を題材にした、評価の高い小説との認識があったからである。しかし、氷壁は単なる背景に過ぎず、若い登山家と某社重役夫人、若い女性との関係をめぐる恋愛小説に過ぎなかった。期待外れだった。

その後しばらくして、「氷壁・ナイロンザイル事件の真実」という本の存在を知り読んでみた。ドキュメンタリーであり、死亡した三重県岩陵会若山五朗の実兄・石岡繁雄が、事故以来の事実を時系列に沿って淡々と怒りを込めて書き記している。石岡はナイロンザイルの弱点を突き止め、登山者の安全を守るため活動してきたが、メーカーや世間はその思いとは異なっていた。実にスリルに満ちた展開を見せる。書籍の半分以上は技術的な論文や資料で占められている。(石岡繁雄は日本山岳会会

員、岩稜会会長、鈴鹿工業高等専門学校教授)

事故は、マニラ麻ザイルからナイロンに替わり始めた時期に起きた。石岡は個人的な実験で、ナイロンザイルはまっすぐ引張ればはるかに強いが、事故現場と同じような鋭く尖った岩角に対しては極めて弱いという欠陥を突き止めた。

一方、ナイロンザイルのメーカー・東京製綱、ナイロン原系メーカー・東洋レーヨン、メーカーから試験を委託された日本山岳会関西支部長・篠田軍治(大阪大学工学部教授)も、石岡の提言を受けた予備試験でその事実を知っていた。ところが、報道および登山関係者を集めた公開実験では、尖った岩角でも、マニラ麻よりナイロンがはるかに強いという結論を導き出した。欠陥を隠ぺいするため、岩角に丸みをつけて切れないように偽装した試験結果であった。この時点から、ナイロンザイル切断事故は「事件」となった。

さらには、世論を登山者のザイルの使用方法の誤りであったかのように誘導した。おまけに、日本山岳会は何ら疑問を持たず、1956年の登山指導書「山日記」にナイロンザイルの安全性を強調する篠田の報告書を掲載し、そのまま1977年に至った。その結果、度重なる

ザイル切断事故を止めることができなかった。ここまでに日本国内で20件の切断事故があったという。

1970年、同じ日に2件の死亡事故が起きたことがきっかけで、再び原因追及が始まり、ナイロンザイルの欠陥が明らかになった。この結果、1973年経産省管轄の下、消費生活用製品安全法が制定され、1975年登山用ロープに安全基準が制定された。世界で初めてのことであった。1977年になって、日本山岳会は「山日記」の登山用ロープに関する記事を訂正し、謝罪した。

石岡20余年の戦いに一区切りがついた。しかし、石岡にはもう一つの戦いが待っていた。

1989年、篠田軍治は関西支部長としての功績などが評価され、日本山岳会評議員会の全会一致で名誉会員となった。石岡らは、登山者の安全に背く非人道的な行為は名誉会員にふさわしくないと、日本山岳会に名誉会員の取り消しを繰り返し要望している。石岡没後の2018年にも遺族らが改めて取り消しを求めている。これに対し、日本山岳会は1991年会報「山」550号(増刊号)で名誉会員の正当性を主張し、2019年にはこれを基に門前払いとした。

日本山岳会元会長尾上昇は2008年の岐阜支部での講演会で、これは日本山岳会100年の歴史の唯一の汚点だと述べている。公益社団法人の冠を被った今、30年前に解決済みの問題だと片付けず、一層の倫理的な対応があつてしかるべきであろう。1955年の切断事故で若山五朗が結んでいたザイルそのものを、長野県大町山岳博物館で感慨深く見た。

参考資料

1. 石岡繁雄に関する情報全般(石岡繁雄の志を伝える会) <https://shigeoishoka.com/>
2. 「公益社団法人日本山岳会に対し篠田軍治氏の名誉会員取消しを求める」(石岡茂雄の志を伝える会、2018年8月) <https://shigeoishoka.com/new80c.html>
3. 日本山岳会会報「山」550号(増刊号)「特集・故篠田氏に対する名誉会員取り消し請求問題について」(1991年3月) <http://jac.or.jp/info/jinkai/kaiho/199103YAMAs1.pdf> p.1-16のみ掲載
4. 岐阜支部山岳講演会、演題「ナイロンザイル事件」、講師：尾上昇、2008年11月14日、<http://www.w>

5. 「福岡支部報」32号、「井上靖研究会と若山五朗のザイルパートナー石原國利の対談」(2019年3月)、
<http://jac.or.jp/images/jacfukuokasibuhou-no32.pdf>

『甲斐駒開山』

(宮崎吉宏著 山梨日日新聞社 2005年)

矢崎 茂男

宮崎吉宏氏は、平成8年に私家版『甲斐駒開山』を限定発行している。平成15年秋、故高室陽二郎さんから、そのコピーをいただいた。高室さんいわく「下手な推理小説より数段おもしろいぞ」。その言葉通り、甲斐駒ヶ岳開山のいきさつを謎解きのように解説した『甲斐駒開山』は痛快であり、知的好奇心を大いにくすぐった。私は勢い余って、感想を山梨日日新聞読者欄に投書したのだが、その趣旨は、こういう作品が私家版ではなく単行本となって広く読まれるべきだ、というものであった。その後宮崎氏とは、電話や手紙のやり取りが何度かあったが、平成17年7月、「ようやく出版に漕ぎ着ける

ことができた」との手紙と共に、味わいのある装丁の単行本『甲斐駒開山』をお送りいただいた。私家版のときと同様に、私はこれを一気に読んだ。私家版の執筆から9年。宮崎氏の研究は格段に深化し、謎解きのおもしろさは一層切れ味を増していた。

著者・宮崎氏と甲斐駒ヶ岳信仰との出会いは、昭和43年のことだという。雷に追われて命からがら黒戸尾根を下った折り、石像・石祠の数々が濃霧に浮かんだ。雷の恐怖と重なって、それは何ともおどろおどろしい印象となって氏の記憶に沈潜したが、やがて何十キロにも及ぶ石像物を、3000メートルの高みにまで運び上げる山岳信仰・甲斐駒ヶ岳の信仰とは如何なるものかという疑問と関心が頭をもたげる。こうして著者は、甲斐駒ヶ岳信仰の起点となった開山の謎へと分け入ることになるのである。

「労作」という言葉は、ややもすると儀礼的に使われがちだが、本来の労作とはこういう本のことを指すのだろう。開山を果たした小尾権三郎という青年修験者の実像と開山の真相を追って、著者の足は茅野・諏訪・岡谷・白州といったゆかりの地へ、何度も何度も向かうのである。その先々で多くの在野研究者や駒ヶ岳教会の関

係者らの知遇を得、様々な情報を受けるとともに、いくつかの重要な文献・資料を手にする。「駒ヶ岳開山威力不動由来記」「遙かなる信濃」「甲斐国駒獄開山略記」などの文献は、権三郎の開山の経緯を同じように記している。即ち、権三郎は若くして修験の行を積み、文化13年(1816)に黒戸尾根からの登頂に成功し開山を果たしたものの、3年後の文政2年に23歳で夭逝したという内容である。しかし大筋で各文献は共通しているが、微妙な相違点や、明らかな虚飾・誇張、死の原因の曖昧さなどがある。著者はここを問題視する。

権三郎の開山を援助し、遺言によって権三郎の遺品9品を贈られたのが白州町の山田家である。現当主の4代前の孫四郎は、当時の甲斐駒ヶ岳の取り締まり役であり、権三郎の入山を許可し、食料を与えて甲斐駒ヶ岳に向かわせた人物である。遺品は死後12年経って贈られたが、この内の「巻物」と「御山提書」の中に、著者は、甲斐駒ヶ岳開山の詳細が後生に伝えられなかった理由を発見し、文化13年の登頂は単独行であり、翌年に8人の弟子を伴って登拜路整備のため再度登頂したことを確信するに至る。さらに遺品の中にあつた法具の精神性に着目し、孫四郎に甲斐駒ヶ岳信仰の継承を託したのだろう

と推論している。孫四郎の息子・嘉三郎が駒ヶ岳講を興した事実が、この推論を裏付けている。

『甲斐駒開山』を読みながら、新田次郎の『聖職の碑』(講談社、昭和51年)に掲載されている「取材記・筆を執るまで」が頭に浮かんだ。50ページに及ぶ取材記録は、これ自体が一つの作品と呼ぶにふさわしい逸文である。取材の過程での出会いや見聞が、小説とは別に、記録に残さずにはいられない衝動を新田に起こさせたのだろう。

『甲斐駒開山』が文学としての価値を有していることは、中村星湖賞を受けたことから明らかであるが、この労作を元に、小説『甲斐駒開山』が宮崎氏のペンによって生み出されたならば、さらに広範な読者層が、甲斐駒ヶ岳開山の謎解きを堪能できるのではないか。私のリクエストはますますエスカレートするのである。

河阪一造くんのこと

秋山 泉

ふと肌寒く気づくと4時を回っていた。二人すっ飛んで鳳凰小屋に戻った。そして酒。
アカヌケの頭、稜線東の白ザレ、ハイマツの横。そこを通るたびに河阪先輩を思い出す。

河阪 一造さん 2019 (平成31) 年4月7日死去。
会員番号8561。

私が白鳳会に入会したのは昭和38年。河阪先輩はその4年前、昭和34年に入会していた。明るくて快活な独身の好青年、母親思いの一人っ子だった。葦高山岳部OBで足が速く夕フ、酒がまた滅法強かった。

入会当時、私は酒が全然飲めなかった。最もまだ20歳。先輩にはよく飲まされた。彼の二階の部屋で登山計画を検討していると、お母さんが酒をつけて上がって来られる。「まあ飲むじゃん」ということになる。父親は既に他界され、母一人子一人の暮らし。甘やかされていたように思われた。

あるとき二人で鳳凰山に登った。秋たけなわの稜線は、ハイマツの緑とダケカンバの黄葉に彩られた見事な温かい世界だった。「おい、ちよっと寝らだあ」と河阪先輩。白ザレの陽だまりで心地よくストンと寝入った。

実直な人柄を偲ぶ

矢崎 茂男

若月 昇さん 2020 (令和2) 年2月1日死去。会員番号12430。

若月さんは笛吹山岳会で活動していたが、古屋学而さんの推挙で本支部に入会した。牧丘町の職員として総務課長・収入役などを歴任して退職。若い頃から登山を愛し、南北アルプスに数多く足跡を残した。振興課勤務時代には山頂看板・道標・登山パンフレットなどの作成に熱心に取り組んだ。

平成15・16年度に実施された袖口金桜神社奥社地の発掘調査に参加。地域の有識者から古文書の提供を受けた。り伝承の収集を行ったりするなど、精力的に活動した。調査団のメンバーには清雲俊元氏・萩原三雄氏ら、山梨県を代表する歴史研究家が名を連ねている。

支部の新年会に何度も参加し、山談義に花を咲かせた。大変温厚で実直な人柄が、その話しぶりから伝わってきた。令和3年度から金峰山古道の本格調査が始まるが、若月さんに協力をいただき、その知見を活かすことができないのは残念の一言に尽きる。ご冥福をお祈りする。

新会員紹介

「百の頂に百の喜びあり」を目指して

窪田 光一

登山を始めたきっかけは、幼馴染の誘いで最寄りの湯村山に登り始めたことです。それから八ヶ岳や甲斐駒ヶ岳など、普段から眺めている山々へ登り、山登りの楽しさや登頂の喜びを味わっていました。

さらに本格的に山登りをしたいと思い、先輩にお声掛けいただいて日本山岳会へ入会することができました。山岳会では、貴重な経験をされている諸先輩方に、安全安心な登り方をご教授いただきながら難度の高い山への挑戦、平地では見られない動植物にも造詣を深めていき

たいと思っております。

また、入会以来新型コロナウイルスで登山が制限されていましたが、山岳会の周年記念事業の山岳古道調査がスタートして、参拝道としての御岳道調査に参加でき、古の登山者の気持ちに思いをはせるのも楽しみにしております。

登山に対してまだまだ未熟ですが、「百の頂に百の喜びあり」を体験できるよう頑張っていきたいと思っております。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

技術錬磨のために

河野 芳尚

エンジニアとして働いた会社を早期退職して、現在は、自分で色々やっております(時間は、自由に使えます笑)。

山歴は、社会人になって新大阪駅近くの居酒屋で飲んでいた時、「そうだ山に行こう」と思い立ち、翌日、友人と梅田まで登山用具を一式買いに行き、当時住んでいた大阪を電車で夜出て、その翌日には西穂高へ登っていました。

それ以降、沖縄の山から北海道の山まで、ポツポツと登ってきました。山の会には一度も所属したことが無く、その為、自己流登山です。地元、富士山は、過去に五合目からは、登った事がありました。3年ほど前には、馬返しから雨の中を山頂まで登ったのが良い思い出です。

他の野外活動としては、テレマークスキー（バックカントリースキーも）、カヤックなどを行っています。ロープワーク、冬季登山含め、登山技術を磨いていきたいと思えますので、宜しく、お願い致します。

再び山へ

小嶋 数文

山との出会いは、40年以上前、高校教師になって初めての部顧問になったのが山岳部でした。若い教員がいななどの理由でした。引率とはほど遠く、どちらかという生徒に連れて行ってもらうような感じで、定期的に県内の山に登るようになりました。登山技術とかあまり熱心でなく、正直なところ、ただ登って帰って来る（大事な事だと思いますが）だけでしたが、そこで出会った

くつかの光景は、昨日のこのように記憶に残っています。

その後、次第に山から遠のき、「街道歩き」の方に軸足を移していきました。主要な街道を歩き終わったら、これからはいよいよ街道歩きも山道が中心になるなどと思いい、しばらく山行していないブランドを埋め、若い時サボって来たきちんとした知識と技術を学ぼうと、第5回・第6回やまなし登山基礎講座を2年連続して受講しました。丁寧な説明となかなか体得できない技術も粘り強く指導していただき、入会させていただく運びになりました。

日本山岳会記念事業としての古道調査、とても楽しみにしています。

山々との出会いに感謝

河野 泰

2018年11月に入会させていただきました。山梨市在住、30数年の教員生活を終え、周囲の山々を眺めながら畑仕事をしています。

入会の契機は「2018年登山基礎講座」。長年暖め

ていた「山への憧れ」を実現したいと思い、勤務最後の年に受講しました。山々の持つ不思議な魅力、危険と隣り合わせの容赦ない自然の厳しさ、入念な準備の必要性などのお話を聞かせていただき、身の引き締まる思いがしました。

2019年、農作業の合間を縫って支部山行、5月の茅ヶ岳、11月の貫ヶ岳にご一緒させていただきました。山々から大自然の持つパワーの源をいただきました。

2020年はコロナ禍という新たな自然の脅威に振り回され現在に至っておりますが、一刻も早い収束を願いつつ、体力作り等の準備をしています。山岳会山梨支部の諸先輩の皆様にご指導をいただき、新たな山々との出会いを目指したいです。宜しくお願いいたします。

新しい目標

上田 謙治

2015年9月山梨支部主催の「やまなし登山基礎講座」を受講したのが大きなきっかけで準会員として入会した。

講座は大きく分けて「登山の基礎知識、実践登山、登

山へ行きたい

高橋みゆき

東京に生まれ育って便利な生活を謳歌しながら、旅行気分で行った初めての山が北アルプスだった。烏帽子、水晶、鷲羽岳。圧倒的な山に魅了され、若さという体力

だけで槍、穂、白馬と立て続けに行くことができた。翌年には山梨に縁があり移住。山が近くなったのに、日常生活の中では遠くの存在。ただ、甲斐駒のピラミッドを朝に夕に眺めていた。

山へ行きたい。ふと、心の中から思いが湧き上がった。25年が経っていた。脳裏に鮮明に蘇る北アルプスの山々。どうしたら行かれるのだろうか。見つけたのが山梨支部の登山講座。ここならきっと、山に行かれるはず。そして私の山歴が始まる。思ってもいなかった冬山に行くチャンスも与えてくれた。若い頃と同じ好奇心と情動に突き動かされるけれど、体力は貧弱で、先々で迷惑をかける。それでも、また、山へ行きたい。山で見たもの、感じたこと、出会った方々、全てが私の心に刻み込まれて次なる情動を生む。

これまで共に山へ行って下さった方々、深く感謝しています。今後ともどうぞよろしく願います。

山梨支部に期待する事

黒沼 英美

北アルプス表銀座を縦走している途中、槍ヶ岳山荘の

コースを歩き始めたことでした。大自然の中で身体を動かすことが楽しく、実家へ戻ると、何と、すぐ近くに六甲山があるではないですか！車で行ったことのない山を家から歩いて、有馬温泉まで一気に行きました。ものすごくしんどかったけど、ものすごく楽しかったことを今でも思い出します。

それからどんどん山友達ができ、アウトドア一色の人生に変わりました。関西の山岳会に所属し、雪山、岩登り、沢登り、バックカントリースキーと、出来ることは何でも挑戦し、とうとう長野県に移住してしまいました。

山登りを突き詰めるために移住したものの、山仲間が全く見つからず、移住を後悔する日々でしたが、縁あって、山梨支部の山行に特別参加させてもらい、2019年末に入会することになりました。入会したとたん、コロナの影響で悶々としています。また新しい世の中になればのんびりと登山を楽しみたいと思っています。

テラスのテーブルで相席をした現支部長の北原氏とご縁で入会を致しました。その前年に小宮山山行委員長がリーダーの雪山山行にも別な伝手で参加していただきました。

日本山岳会という日本最大の山岳会に入会し山歩きが幅が広がり、先輩方とご一緒していく中で知識も増えました。向上心旺盛な性格なもので、やってみたい事がいっぱいあります。年齢的に厳しいものもあり、それについては自覚もして諦めも必要かと思っています。まだできそうな事には挑戦したいです。

入会して1年経ちました。凄いスキルをお持ちの先輩方が沢山いらっしやる事も知りました。私達新人にそのスキルを伝授してくださる事を期待しております。新人支部員の技術向上にお力を貸していただけるようお願い申し上げます。

人生を変えた山との出会い

河内 幸子

山との出会いは、カナダ留学の際に、大好きな動物を見たさにホームステイの家の近くにあるトレッキング

ふたたび山へ

相川 修

私が山登りを始めたきっかけは、年少の頃父親に連れられ、金峰山や乾徳山へ登ったことでした。年少の頃の経験からか高校、大学時代と大きなキスリングを背負い北アルプス、南アルプスなど様々な山に登りました。

それから、35年……。日頃の生活に追われ、ほとんど山に登ることなく過ごしてきましたが、定年を前に何か集中出来る事を探しておりました時に支部主催の「登山基礎講座」を知り、受講させていただきました。受講した事であらためて山の楽しさ、奥深さを知り、再び山登りを始めようと思ふ契機となりました。

このような経緯から、本年度より日本山岳会山梨支部に加入させていただきました。これからも皆様に指導を頂きながら、山登りを一生の趣味とし、楽しい山行をしていきたいと思っています。よろしく願います。

そうだ、山へ登ろう

大城 丈典

「そうだ、屋久島へ行こう。」55歳のときにふと思いついた。調べてみると宮之浦岳という九州で一番高い山があるという。そこに一人で登ってみよう。しかし、生まれも育ちも沖縄で（もちろん仕事も沖縄で）、登山などしたことがない。また周りにもそういう人間もない。さて、どうするか。そんなある日、地元に山岳会があることを知り、そこならば登山のスキルを身につけることができるだろうと、さっそく入会した。

初めて登った山は、夏の穂高連峰であった。会の先輩会員に連れられて、上高地↓横尾↓涸沢↓北穂高岳↓奥穂高岳↓前穂高岳↓上高地、というルートを歩いた。重いザックを背負って慣れない岩場を登っていく。息が上がると。「なんで自分はこんな苦行みたいなのをしてるんだ？」と度々思う。そして、ようやく山頂に辿り着き、そこから見た景色は、それは素晴らしいものであった。なるほどこういう世界もあるのか！自分なりに、人はなぜ山に登るのかという問いに対する答えを見つけた

気がした。

昨年4月に仕事をリタイアし、自由に使える時間が増えた。それを機に、さらに深く山のことを知ろうと思いい、6月に居を山梨（甲府）に移した。ただし、家族は沖縄に残したままなので、移住というわけではなく、言うなれば「登山留学」である。限られた時間ではあるが、山梨支部の皆さまとの交流を通して楽しい時間を共有させていただきたい。

事務局報告

大澤 純二

2019（令和元）年度

●理事会・総会など（議題ほか）

平成31年（2019年）

- 4月10日 臨時理事会（第5回やまなし登山基礎講座、『甲斐百山』登山地図作成）
- 4月20日 理事会（登山基礎講座、定時総会議案）
- 4月20日 定時総会（平成30年度事業報告・決算、平成31年度事業計画・予算）

令和元年（2019年）

- 5月14日 理事会（支部山行の課題、登山基礎講座、『甲斐山岳』11号進捗状況）
- 5月23日 「甲斐山岳」緊急編集会議（『甲斐山岳』11号は6月発行、『甲斐百山』は特集号として後日発行）
- 6月12日 理事会（支部通信、『甲斐山岳』11号、『甲斐百山』特集号、木暮祭）
- 7月10日 理事会（登山基礎講座、支部山行の課題、『甲斐百山』）

8月9日 登山基礎講座準備会（講座運営、講義内容確認）

9月11日 理事会（登山基礎講座、第60回木暮祭、『甲斐百山』）

10月9日 理事会（登山基礎講座）

11月12日 山行委員会（2020年1～3月、2020年度支部山行計画）

11月13日 理事会（登山基礎講座、『甲斐百山』別冊発行）

12月11日 理事会（登山基礎講座総括、11月支部山行貫ヶ岳の反省、2020年支部山行計画承認、『甲斐百山』別冊発行、支部通信）

12月27日 緊急理事会（『甲斐百山』増刷）

令和2年（2020年）

1月15日 理事会（来年度事業計画・予算、『甲斐百山』増刷）

1月24日 臨時理事会（『甲斐百山』増刷、11月支部山行貫ヶ岳の反省）

2月12日 理事会（支部山行、日本列島古道踏査案）

2月21日 山行委員会（支部山行の課題）

3月11日 理事会（定時総会議案、『甲斐百山』増刷）

●支部行事など

- 平成31年(2019年)
 4月7日 支部山行(高川山・大月市/都留市) 11名
 (会員外5名)
 4月21日 支部山行(茅ヶ岳・北杜市/甲斐市) 13名
 (会員外7名)
 4月21日 第38回深田祭(韮崎市・深田記念公園)
 令和元年(2019年)
 5月19日 第2回田部祭(山梨市・西沢渓谷入り口バ
 ス停/田部重治文学碑前)
 5月19日 支部山行(西沢渓谷・山梨市) 10名(会員
 外1名)
 6月8、9日 JAC中部ブロック4支部交流会(越
 後支部担当、妙高池の平温泉泊/妙高笹ヶ
 峰夢見平トレッキング) 46名(山梨支部
 4名)
 6月16日 支部山行(王岳・富士河口湖町/笛吹市/
 甲府市) 16名(会員外6名)
 7月7日 支部山行(尾白川渓谷・北杜市) 11名(会
 員外6名)
 7月13、14日 支部山行(雨飾山・長野県/新潟県)

11名(会員外3名)

- 8月18、20日 支部山行(穂高岳・長野県/岐阜県)
 9名(会員外3名)
 10月19、20日 第60回木暮祭(祝賀会・北杜市みずが
 き山リーゼンヒュッテ/碑前祭・北杜市
 金山)
 10月20日 支部山行(向山・北杜市金山) 19名(会員
 外4名)
 11月4日 支部山行(稲山―春日沢の頭・笛吹市) 8
 名(会員外3名)
 11月24日 支部山行(貫ヶ岳・南巨摩郡南部町) 14名
 (会員外2名)
 12月1日 支部山行(湯村山―八王子山―片山・甲府
 市) 14名(会員外6名)
 令和2年(2020年)
 1月19日 支部山行(八頭山・韮崎市) 13名(会員外
 2名)
 2月9日 雪山講習(入笠山・長野県富士見町) 中止
 3月1日 雪山講習(北横岳・長野県茅野市) 中止
 ●第5回やまなし登山基礎講座2019(全8回、9月
 3日~11月10日) 受講生28名

- 第1回 9月3日 Aオリエンテーション、B山梨の
 登山史と日本山岳会、C山の気象と観天望
 気

- 7月1、2日 白根三山、定経路②調査(二俣~白根
 御池小屋~草スベリ~北岳山頂)、北原孝
 浩ほか3名

- 第2回 9月17日 A山に入る前に(登山計画、山岳
 保険)、B夏山登山総合(安全登山、装備・
 服装・食料、自然保護)

- 7月25、26日 鳳凰三山、探索調査(白鳳峠~地藏ヶ
 岳~観音ヶ岳~薬師岳)、北原孝浩ほか2
 名

- 第3回 9月24日 Aロープワークの基本、B地図の
 読み方

- 機関誌発行(『甲斐山岳』、『支部通信』)
 令和元年(2019年)

- 第4回 9月29日 総合実践登山1(瑞牆山)
 第5回 10月1日 A山梨の山岳遭難の現状と対策、
 Bけが、病気などの応急処置

- 6月18日 支部通信 第3期第6号
 6月28日 『甲斐山岳』第11号(創立70周年記念号)
 12月7日 『甲斐山岳』第11号別冊「甲斐百山」初版
 1刷400部

- 第6回 11月7日(10/13を延期) 総合実践登山2
 地図の読み方・セルフレスキュー(茅ヶ岳)

- 令和2年(2020年)
 2月10日 『甲斐百山』2刷訂正版増刷300部
 3月11日 『甲斐百山』3刷増刷300部

- 第7回 10月26、27日 総合実践登山3(硫黄岳、硫
 黄岳山荘泊)
 第8回 11月10日 総合実践登山4 地図の読み方・
 セルフレスキュー復習(八人山)

- 3月20日 支部通信 第3期第7号
 ●平成31年度・令和元年度 会員異動
 入会 令和元年6月 会員番号16499 窪田光一
 令和元年6月 会員番号A0243 上田謙治
 (準会員)

- 山梨県山岳レインジャー活動
 令和元年(2019年)
 6月23、24日 甲斐駒・仙丈、探索調査(黒戸尾根、
 七丈小屋)、大澤純二ほか1名

- 令和元年7月 会員番号A0251 高橋みゆき

(准会員)

令和元年8月 会員番号A0259

黒沼英美

(准会員)

令和元年11月 会員番号16553

勝倉修一

令和元年12月 会員番号A0297

河内幸子

(准会員)

令和元年6月 会員番号12209

石垣武久

令和元年7月 会員番号5024

日本 伸

令和元年4月 会員番号8561

河阪一造

令和2年1月 会員番号12430 若月 昇

2020(令和2)年度

●理事会・総会など(議題ほか)

令和2年(2020年)

4月18日 理事会(定時総会議案)

4月18日 定時総会(令和元年度事業報告・決算、令和2年度事業計画・予算)

4月18日 臨時理事会(新役員担当業務、古道踏査委員会設立)

5月19日 理事会(2020年度主要事業実施計画、第6回やまなし登山基礎講座、支部行事

とコロナウィルス対応、支部通信)
理事会(登山基礎講座、古道踏査)
理事会(古道踏査委員会発足、登山基礎講座計画確定、個人山行の充実化)
理事会(登山基礎講座におけるコロナ対策、第61回木暮祭・支部山行の縮小実施)
理事会(来年度の講座開催について、山岳古道調査実施案・委員募集、支部通信案)
理事会(支部山行予定、第1回古道調査委員会、来年度の登山基礎講座開催時期等検討)
山岳古道調査委員会(古道調査の概要・スケジュール確認、過去の調査例報告)
理事会(1~3月支部山行、2021年度支部事業計画案、山岳古道調査)
理事会(2021年度支部事業計画案、2021年度支部山行案、支部山行と旅行業法の関係、山岳古道調査)
山岳古道調査委員会(金峰山古道・南アルプス北部古道の2班を組織、調査活動開始)

濃支部担当)、次年度に延期

10月18日 支部山行・五里山1730m(北杜市須玉町)13名(会員外1名)

10月18日 第61回木暮祭

11月28日 支部山行・たいら山(中央市豊富)16名(会員外4名)

令和3年(2021年)

1月17日 支部山行・鳥谷山(トヤサン)(山梨市)、中止

1月30日 雪山入門・入笠山(長野県)、6名(会員外2名)

2月7日 支部山行・西向(ニシムキ)(斐崎市)、中止

2月20日 雪山入門・八ヶ岳北横岳(長野県)、8名(会員外3名)

3月21日 支部山行・浜石岳(静岡市)、中止

●第6回やまなし登山基礎講座2020(全11回、9月8日~11月17日)受講生15名

第1回 9月8日 Aオリエンテーション、B日本山岳会について、C山の天気と観天望気

第2回 9月15日 安全安心登山の基本

1月27日 山行委員会(2021年度山行計画、会員外参加者から「参加同意書」受領)

2月10日 山岳古道調査委員会(金峰山古道班、南アルプス北部古道班)

2月17日 理事会(2021年度山行計画、2021やまなし登山基礎講座)

3月10日 理事会(定時総会議案、登山基礎講座)

●支部行事など

令和2年(2020年)

4月19日 支部山行(茅ヶ岳・北杜市/甲斐市)5名(会員外1名)

4月19日 第39回深田祭(斐崎市・深田記念公園)、中止

5月17日 第3回田部祭(山梨市・西沢渓谷入り口バス停/田部重治文学碑前)中止

5月17日 支部山行(西沢渓谷・山梨市)10名(会員外1名)、中止

5月30日 家族登山 西湖野鳥の森公園・青木ヶ原樹海・足和田山(南都留郡富士河口湖)中止

6月20日 中央アルプス・三ノ沢岳(長野県)、中止

10月17、18日 JACC中部ブロック4支部交流会(信

第3回 9月29日 山の装備と食糧
第4回 10月6日 A 地図読み、B 高山植物と自然保護

第5回 10月10日 実践登山1 (八人山)

第6回 10月13日 山の救急医療

第7回 10月20日 ロープワークとセルフレスキュー

第8回 10月24日 実践登山2 (茅ヶ岳)

第9回 10月27日 A山の文学、B山梨の登山史

第10回 11月8日 実践登山3 (高川山)

第11回 11月17日 A山梨の山岳遭難の現状と対策、

B山岳写真、C修了式

●山梨県山岳レインジャー活動

令和2年(2020年)

6月27、29日 白根三山、探索調査(6/27北岳、6

／29櫛形山)、古屋寿隆ほか1名

7月15、17日 甲斐駒・仙丈、探索調査(7/15甲斐

駒ヶ岳、7/17日向山)、北原孝浩ほか4名

8月8、9日 鳳凰三山、定型路①調査(薬師小屋、

薬師岳、観音岳)、古屋寿隆ほか3名

●機関誌発行(『甲斐山岳』、「支部通信」)

令和2年(2020年)

6月25日 支部通信 第3期第8号

12月21日 支部通信 第3期第9号

令和3年(2021年)

3月31日 『甲斐山岳』第12号

●令和2年度(2020年度) 会員異動

入会 令和2年4月 会員番号A0332

相川 修
(準会員)

令和2年4月 会員番号A0335

福田直樹
(準会員)

令和2年11月 会員番号16691

小嶋数文
(準会員)

令和2年12月 会員番号16693

河野芳尚
大城丈典
(準会員)

令和2年12月 会員番号A0361

令和3年3月 会員番号A0186

澁澤和子
高野正明

退会

令和3年3月 会員番号16063

令和3年3月 会員番号A0186

あとがき

支部機関誌『甲斐山岳』第12号は、本来昨年三月に発行するところを、『甲斐百山』の発刊に伴い今年度末に延期した。昨年2月以降の新型コロナウイルス感染症拡大の災禍を受け、今年度は支部活動の縮小を余儀なくされた。特に支部山行はわずか数回の実施にとどまり、本誌の山行記録欄は寂しい内容になった。

今般の災禍は正しく記録されなければならない。本誌もこの使命を負っている。そのため「新型コロナウイルス感染症と登山」という章を設け、論考・山行体験などを掲載した。今後の登山の在り方や支部の活動を考える上で指針となれば幸いである。

また今号では、新会員10人の紹介文を載せることができた。会員の増加は支部活性の原動力。喜ばしい限りである。

ご高覧、ご叱正いただければ幸いである。

題字 高室陽二郎
表紙 遠山 若枝

甲斐山岳 第十二号

令和三年三月三十一日発行

発行 公益社団法人日本山岳会山梨支部
発行者 北原 孝浩
編集 矢崎 茂男

支部事務局住所
〒400-0118
甲斐市竜王三〇二二-1 古屋寿隆方

